

編集後記

東京都中学校理科教育研究会

前研究部長 添 田 禮 子

研究部長 山 田 充 男

全国中学校理科教育研究会東京大会「東京の理科研究」が、多くの関係者の献身的なご協力により発行の運びとなりましたことに、まずもって心からお礼申し上げます。

東京都中学校理科教育研究会は、理科教育の充実発展を目指し、毎年、教員と生徒の研究発表会を開催し、数多くの研究発表資料を出してきております。ところが、毎年作成される研究資料は種類は多いものの発行部数が限られているため、一部の関係者にしか渡らないという問題点があります。本研究誌は、それらの数年間にわたる実践の集大成としての意義をもつとともに、発行部数も多いことから、数多くの方々への啓発・普及という意義ももつものであります。

さて、学校を巡っては多くの教育課題が山積し、理科に限らず、教科に関して腰を据えてじっくり研究に取り組むことが年々難しくなっています。しかしながら、学校の業務の大半は授業であり、その授業の大半は教科から構成されていることを考えると、教科に関する研究の重要性は、増すことはあっても減ることはないということが出来ます。ですから、理科教育に携わる者は、たとえどんなに多忙であっても、理科教育に関する研究を生活の柱に据えなければならないと考えます。本研究誌はそのためのよき羅針盤としての役割を担うものであります。

理科教育は多くの課題を抱えています。これまでの理科では探究活動が重視されていましたが、これからは、さらに、「関心」「意欲」「好奇心」を伴う目的意識に支えられた探究活動を通して着実に問題解決能力を養うことが求められます。自然離れや自然体験の不足にも積極的な対応が求められます。さらに、日常生活と理科で学んだことを関連づける指導、絶対評価の充実と指導と評価の一体化のさらなる推進が重要課題となっています。

本研究誌には、これらの課題に正対し、創意工夫をこらしてその解決を図る取り組みが数多く収録されています。これらの成果を活用していただくと同時に、さらにそれぞれの学校や生徒の実態に応じてさらなる創意工夫を加えていただきたいと思います。教師による創意工夫は生徒の創意工夫を呼び起こし、豊かな思考力や創造力を育むことにつながります。教師による創意工夫のないところから生徒の創造性は生まれません。

さて、中学校の理科教育の発展のためには、各地区での取り組みがより有機的に結びつき、時には助け合い、時には高め合うことが重要です。この研究誌がそのための拠り所となることを強く願うものであります。

最後になりますが、ご尽力いただきました「東京の理科研究」担当校長の蛭田 明先生（荒川区立第三中学校）をはじめ、執筆をお引き受けいただいた先生方、関係の方々に重ねてお礼を申し上げ、編集後記とさせていただきます。